

学校体育におけるテニス教材のカリキュラム及び指導法に関する検討

The study on the teaching method and curriculum of soft-tennis in school physical education

1K05B110

指導教員

主査 吉永武史先生

塩寄 弘騎

副査 宮崎正己先生

【本研究の動機】

私は小学校2年から現在まで、競技としてテニスに取り組んできている。そのテニスについては、中学校段階から保健体育科の教材として位置づけられているにもかかわらず、体育授業で取り扱われているケースはほとんどない。その原因として、小学校段階で児童が経験するネット型ゲームはバドミントンや卓球が中心となっており、テニスについての経験が不足していることなどがあげられる。このようにテニスが採択されにくい原因がいくつかあげられるが、テニスには教材的価値が十分にあると考えられる。しかしながら、学校体育におけるテニスの指導法に関する研究が少ないことによって、テニス教材を取り扱った授業実践も少ないという現状を生み出しているのではないかと考える。

そこで私は、学校体育を対象としたゲームパフォーマンス向上のためのテニスのカリキュラムならびに指導法について明らかにしていきたいと思い、本研究のテーマを設定するに至った。

【本研究の目的と方法】

本研究では、学校体育におけるテニス教材の取り扱いについて検討し、発達段階に応じたテニスの学習指導モデルについて提案することを目的とする。中学校ならびに高等学校を対象に、テニスの実施状況と課題について明らかにし、それを踏まえて、テニスのカリキュラムならびに学習指導について検討する。さらに、ゲームパフォーマンスを高めるためのテニスの学習指導モデルについて提案する。また、本研究では、体育授業にお

けるネット型ゲームに関する資料ならびにテニスに関する専門書をベースに文献研究を進めている。

【各章の概要】

第1章では、中学校ならびに高等学校学習指導要領にみるテニスの教材の変遷から考察した。

テニスの教材は戦後最初の学校体育指導要綱から記載されていたが、昭和期までの取り扱いは中心的な種目としてではなかった。しかし、「生涯スポーツ」が提唱されるようになっていくと、それとの関連で他の球技と同レベルで学校体育の教材として取り入れられるようになった。つまり、時代的要請が生涯スポーツとしてのテニス教材の必要性を生み出したのと考えられる。また、テニス授業の実施状況について検討を試みた結果、体育教師による適切な技術指導はあまり提供されていなかったことが確認された。

第2章では、種目主義にもとづくテニスのカリキュラムと技術習得を中心としたテニスの指導法について考察した。この考察した結果として、種目主義によるテニスのカリキュラムから脱却し、テニスの技術ならびに戦術構造から系統的な学習内容を規定し、それに応じた教材の採択を行っていく必要があるといえる。つまり、技術と戦術を乖離するような形で指導することは適切ではないといえる。

第3章では、生徒のゲームパフォーマンス向上を実現していくためのカリキュラムならびに指導法について検討した。具体的には、学習内容を効

果的に習得していくための指導法や、技術と戦術を結びつけるテニス指導のあり方についての検討を行った。その結果、難易度別に規定されることによって、生徒の発達段階に応じて学習内容を規定することができるようになることが確認された。また、戦術アプローチによる指導理論を活用することによって、技術と戦術を一体化した指導が可能となり、ゲームパフォーマンスを向上させることができるようになるといえる。

結章では、学校体育において発達段階に応じたテニスの学習指導モデルについて検討した結果、種目をベースにしたカリキュラム編成から脱却し、技術と戦術を結びつけるような学習指導が重要であることが明らかになった。しかし、本研究で提案した学習指導モデルは未検証のままである。これを机上の空論に終わらせないためにも、今後実証的検討を進めていく必要があるだろう。